

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：42708

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652043

研究課題名(和文)バレエにおける音楽と舞踊～三領域協働によるバレエ・リュス作品に関する実践的研究～

研究課題名(英文)A study of the relationship between music and dance in ballet : Focus on <Egyptian Nights> and <Les Sylphides>

研究代表者

糟谷 里美 (Kasuya, Satomi)

昭和音楽大学短期大学部・その他部局等・講師

研究者番号：70266245

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、20世紀初頭にバレエにおける音楽と舞踊の関係性に新機軸を拓いたと考えられるバレエ・リュスの作品等に注目し、実践的検証を含みつつ多角的に音楽と舞踊の関係性について検討した。フォーキン振付の《エジプトの夜》(1908)と《レ・シルフィード》(1909)を検証した結果、《エジプトの夜》ではバレエ音楽《エジプトの夜》を用いたことにより、振付演出が容易に行われたことが示唆された。一方、《レ・シルフィード》ではバレエ音楽ではない19世紀ロマン主義音楽を用いたが、人間の身体運動に配慮した演奏と演奏者の意図を考慮した振付が行われることにより、音楽と舞踊が相互に影響し合う関係性が見られた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to find out the relationship between music and dance in ballet, focusing on two works by Michel Fokine who was a choreographer of BALLETS RUSSES - <Egyptian Nights>(1908) and <Les Sylphides>(1909). It is suggested that it was easier for Fokine to create <Egyptian Nights> because he used the music composed for ballet, in which there is a lot of dramatic flow with characteristic melodies. In <Les Sylphides>, Fokine choreographed the ballet with characteristics of Romantic Ballet, using 19 century's music. It is considered that this ballet is a brilliant piece of work because of its successful use of the co-effectancy between the dancer's movement and the player's interpretation of the music and choreography.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学

キーワード：バレエ 音楽と舞踊 フォーキン エジプトの夜 レ・シルフィード バレエ・リュス

1. 研究開始当初の背景

バレエにおける音楽と舞踊の関係についての研究には、ストラヴィンスキーとバランシンの共同作業を論じたもの (Hdgins, 1992) やバレエ・リュスの振付家やソビエト時代の振付家の実践を概観し、動きを捉えながら 20 世紀の舞踊と音楽の関係に言及したもの (Jordan, 2000) がある。伊藤はこれらの論考に対し、前者は音楽的構造に主眼が置かれ、舞踊に対する考察が不十分であると、また後者は振付の構造的側面に注目しているものの、動きに対する考察が欠如しているとした (伊藤, 2002)。一方伊藤は、音楽と舞踊の関係そのものについての議論を困難として、バレエのレッスンにおける音楽と振付の関係に着目し、身体に密着したレベルでの関係構築について考察した (伊藤, 2002)。しかし、伊藤の論説は日常のバレエ・レッスンの範囲にとどまっており、舞台化されたバレエ作品を研究対象とはしていない。これらの研究は、様々な独自の視点に基づいた音楽と舞踊の関係性探求の試みであるが、いずれもバレエの一側面に注目している点、研究対象が 20 世紀以降のものに限られている点に課題が残された。

そこで音楽と舞踊の関係性について、その起源から 20 世紀に至る歴史的変遷を辿った (糟谷ら, 2011)。その結果、19 世紀までは作曲家と振付家の共同作業の関係であったが、20 世紀に既成音楽と振付家という関係が参入し、音楽と舞踊の間には様々な形の融合が生じたことがわかった。また、音楽と舞踊の関係が多様な形式をもつ時、音楽と舞踊の関係そのものではなく、それを築くプロセスを、バレエ作品においても身体レベルで議論していく視点が重要であると考えられた。

以上のことから、本研究では、音楽と舞踊の関係が変化する 20 世紀初頭に、特に 19 世紀の作品再演と 20 世紀の新作上演が同時に行われたバレエ・リュスの上演作品に着目し、そこに用いられた音楽と舞踊の新しい関係性を複眼的に探ることで、これまで断片的あるいは通史的に論じられたバレエにおける音楽と舞踊の関係性について、新たな視座と可能性を導き出したいと考えた。

【文献】(掲載順)

- Hodgson, Paul 「Relationships between Score and Choreography in Twentieth-Century Dance: Music, Movement and Metaphor」 The Edwin Mellen Press, 1992
- Jordan, Stephanie 「Moving Music: Dialogues with Music in Twentieth-Century Ballet」 Dance Books, 2000
- 伊藤友子「クラシック・バレエにおける動きと音楽のダイナミズム」大阪大学大学院博士論文、2002
- 糟谷里美、川染雅嗣、鈴木二美枝、高橋健一郎「音楽と舞踊、バレエの関係性の変遷と課題」昭和音楽大学研究紀要、第 30 号、2011

2. 研究の目的

本研究は、20 世紀初頭にバレエにおける音楽と舞踊の関係性に新機軸を拓いたと考えられるバレエ・リュス (ロシア・バレエ団 1909-1929) の作品の音楽と舞踊に焦点をあて、作曲学、舞踊学および音楽史の三領域に渡り多角的にバレエにおける音楽および舞踊の分析を行ない、それらを融合させた上で、実践的検証を包含しつつ複眼的に音楽と舞踊の関係性について検討することを目的とする。具体的には、既成曲を用いたミハイル・フォーキン (1880-1942) による作品に着目し、楽曲の分析、舞踊の分析等を行ない、ロシア音楽史の流れに関連付けながらその特色を探り、さらに実践研究を通じて、現代的視点でのバレエにおける音楽と舞踊の新しい可能性について示唆を得る。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法により進めた。

(1) バレエ・リュス作品およびフォーキンに関する資料および楽譜、写真・映像資料等を収集した。

(2) バレエ・リュス作品の基になったフォーキン作品《エジプトの夜》を取り上げ、改訂上演されたバレエ・リュス作品《クレオパトラ》との比較を含め、さらにロシア音楽史の史的背景と関連させ、音楽と舞踊の関係性を探った。

(3) フォーキンによるバレエ・リュス作品《レ・シルフィード》について楽曲および舞踊の分析と特徴の検討を行い、19 世紀ロマン主義音楽のバレエへの転用の可能性を検討した。

(4) 《エジプトの夜》および《レ・シルフィード》において、演奏家とダンサーの両視点から、バレエにおける音楽と舞踊の関係性をみるために、実践的検証を行った。《エジプトの夜》については、バレエ音楽《エジプトの夜》(アレンスキー作曲) のピアノ譜の演奏とオーケストラ譜の再現演奏を試みた。また、《レ・シルフィード》については、聴覚資料と映像資料を用いて、演奏のみの時と舞踊を伴った場合の演奏の特徴を比較した。

4. 研究成果

(1) バレエ・リュスの振付家フォーキンの初期作品《クレオパトラ》(1909) とその基となったバレエ《エジプトの夜》(1908) に着目し、《エジプトの夜》の音楽とバレエの成立背景と《クレオパトラ》への展開をみることで、音楽と舞踊の関係性について検討した。その結果、第一にアレンスキーのバレエ音楽《エジプトの夜》が、チャイコフスキーやグラズノーフら当時バレエ音楽の作曲において成功を収めていた作曲家の身近な影響を受けて作られたものであったため、フォーキンにとって振付・演出の容易な題材であったと推察された。第二に、バレエ《エジプトの夜》がフォーキンのバレエ改革を試みる

ための最適な作品であったことが考察された。第三にバレエ《エジプトの夜》の改訂版であるバレエ・リュス作品《クレオパトラ》は、興行主ディアギレフの戦略のもと成功を見たが、その音楽はアレンスキーを含むロシア人作曲家の楽曲の寄せ集めであり、主役も女優に任せ、一時的には人気を博すものの再現されることのない作品となってしまった。その理由として挙げられたのは、「現代性」の喪失であったと考えられた。

(2) バレエ音楽ではない既成曲をバレエ作品に用いたという観点から、フォーキン振付のバレエ・リュス作品《レ・シルフィード》(ショパン作曲)に着目し、その基となった《ショピニアーナ》(ショパン作曲、フォーキン振付、1907)からの改訂も踏まえて、フォーキンの音楽への取組みを検討することで、19世紀ロマン主義音楽のバレエへの転用の可能性を探った。フォーキンが行ったショパン音楽のバレエ化という作業をみた結果、ショパン音楽の異なる楽想の並置による急な場面転換がドラマティックな作品を生み、ホモフォニック性による旋律の明確さが踊りに表情をもたせ、またテンポの伸縮と微妙な折り合いを付けた奏法は踊る側にも共有可能なものであった。このような特徴がフォーキンの構想と振付に合致したことが、ショパンの音楽がバレエ作品に転用された要因であると考えられた。さらに他の19世紀ロマン主義音楽についてもみた結果、ショパンの場合と同じように、音楽が振付家の意図や呼吸や間、跳躍の滞空時間といった個体差のある実際の踊り手の条件と共鳴する要素を持ち得たならば、バレエへの転用が可能になる潜在性をもつと示唆された。

(3) バレエ音楽《エジプトの夜》のピアノ譜を演奏するとともに、原版に近いオーケストラ譜に編曲し、実際の再現演奏を試みた。その結果、この音楽が非常にドラマティックであり、その根底には華麗な音型の変化とともに物語が進行し、極端な音域の変化により登場人物の感情の変化を表現するという特徴が認められた。演奏の過程で自然と物語のドラマ性がキャッチできたのと同様に、振付の過程でも音楽の特徴によって物語のイメージが湧きあがってきたと推察された。

(4) 《レ・シルフィード》を題材として、バレエにおける音楽と舞踊の関係性について、演奏家とダンサーの視点から、その相互構築の様相を聴覚資料および映像資料をもとに検証した。その結果、人間の身体運動に配慮した演奏により舞踊を引き立たせるとともに、演奏家の意図を考慮した振付が行われることにより、舞踊によってさらに音楽が引き立つという相互に影響し合う音楽と舞踊の関係がみられ、これが《レ・シルフィード》を名作へと導いたと考えられた。しかし、実

際のバレエ作品の制作現場では、リハーサルをピアノ伴奏で行い、舞台ではオーケストラ演奏によるというのが一般的であり、演奏形態の相違により、舞踊にどのような変化をもたらされるかについては、今後の検討課題となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

(1) 糟谷里美、川染雅嗣、高橋健一郎、鈴木二美枝、豊住竜志、バレエにおける音楽と舞踊—《レ・シルフィード》を事例として—、バレエにおける音楽と舞踊—研究成果報告書(平成23-25年度)、査読無、2014(刊行予定)、29-40

(2) 川染雅嗣、糟谷里美、高橋健一郎、鈴木二美枝、豊住竜志、19世紀ロマン主義音楽のバレエへの転用の可能性—〈バレエ・リュス〉作品《レ・シルフィード》に着目して—、昭和音楽大学研究紀要、査読有、第32号、2013、57-72

(3) 糟谷里美、川染雅嗣、鈴木二美枝、高橋健一郎、豊住竜志、バレエ《エジプトの夜》の成立背景と展開、昭和音楽大学研究紀要、査読有、第31号、2012、149-160

[学会発表] (計3件)

(1) 川染雅嗣、鈴木二美枝、演奏発表「エジプトの夜 作品50」(アレンスキー作曲)、昭和音楽大学平成25年度教員・研究員研究発表、2013.10.1、昭和音楽大学ユリホール

(2) 糟谷里美、川染雅嗣、高橋健一郎、豊住竜志、鈴木二美枝、バレエ《エジプトの夜》をめぐる、シンポジウム「バレエにおける音楽と舞踊」、科学研究費助成事業、2013.1.28、昭和音楽大学ユリホール

(3) 豊住竜志、復元演奏発表「エジプトの夜」(アレンスキー作曲、豊住竜志編曲)、シンポジウム「バレエにおける音楽と舞踊」、科学研究費助成事業、2013.1.28、昭和音楽大学ユリホール

[図書] (計1件)

アレンスキー作曲・豊住竜志編曲、Egyptian Nights (オーケストラ譜)、2012、228頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

糟谷 里美 (KASUYA SATOMI)

昭和音楽大学短期大学部・音楽科・講師
研究者番号：70266245

(2) 研究分担者

川染 雅嗣 (KAWASIME MASASHI)

昭和音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号： 10204728

(3) 研究分担者

鈴木二美枝 (SUZUKI FUMIE)

昭和音楽大学短期大学部・音楽科・准教授

研究者番号： 40442123

(4) 研究分担者

高橋健一郎 (TAKAHASHI KENICHIRO)

札幌大学・地域共創学群・教授

研究者番号： 80364206

(5) 研究分担者

豊住竜志 (TOYOZUMI TATSUJI)

昭和音楽大学・音楽学部・准教授

研究者番号： 20227656